

令和4(2022)年度

金沢大学

Future Design Practice

未来デザインプラクティス

～自分と未来は変えられる!～

報告書



目 次

はじめに	1
プロジェクト（授業）概要	
目的	2
各プラクティススケジュール	3
各プラクティス参加状況	3
各プラクティス企画一覧	3
事前講義	4
地域での学び（日帰り）	
五箇山	11
能登・珠洲	14
能登・小木	17
白山	20
学生レポート	22
学生によるアンケート調査・結果	28
ご協力いただいた皆様	33

はじめに

金沢大学は、豊かな伝統文化が醸成された学都金沢という素晴らしい環境にあります。また、加賀藩彦三種痘所を源流とし、旧制第四高等学校等の前身校から受け継いだ 160 年余の歴史と伝統を有しています。本学では、大学憲章において「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」を基本理念に掲げ、理念に立脚した学士課程・大学院課程それぞれの育成人材像を「金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS)」として示しています。

この人材像のもと、本学の学生たちが、未来の課題を探求しその克服に貢献する知恵、さらには未来の価値を生み未来の社会を創造するための知恵である「未来知」を生み出すことを目指しています。そして、学生たちが本学での学びや経験をとおして、あるべき社会を先導する力を持った「金沢大学ブランド人材」となって社会に巣立つことを願っています。

この「未来知」の創造には、現代、さらに未来の課題を探求し、問いを自ら見出し、仮説を立て、エビデンスをもって検証し、妥当性があるか考え抜くことが必要です。このプロセスが、まさに未来の価値を創造する、未来社会を創造することにつながります。

そのために、グローバルな課題や地域課題を現場的観点から捉え、そこに暮らす人々の幸福のために社会がどのようにあるべきか思い描く力、一言で言えば“未来をデザイン”する力が重要だと考えています。2022 年度から開講された『未来デザインプラクティス』は、学生自身が“未来をデザイン”する力を養うための“プラクティス（練習・実践）”を目的とする新しい授業科目です。

学生たちには、「自分と未来は変えられる！」というテーマのもと、自ら金沢大学の未来をデザインし、プロジェクトを企画し、実行することが課題として与えられます。

各プロジェクトチームは、本学の教職員をメンター役に据え、自ら企画したプロジェクトの実現に奔走しました。その中で、学生たちは、学内外の様々な人たちを巻き込みながら、課題を現場的観点から捉え、あるべき社会を思い描く力を伸ばし、未来社会に想いをはせてきました。

ここに 2022 年度の『未来デザインプラクティス』の報告書として、学生たちが企画したプロジェクトの内容や成果についてまとめました。本学の教育理念にもとづく特色ある教育プログラムへのご理解を賜り、学生たちの高い意欲と成長をご覧いただければ幸いです。

結びにあたり、本プログラムの実施にあたっては、地域の皆様をはじめ、多くの皆様から多大なご協力とご支援を頂戴しました。この場をお借りして深く感謝を申し上げ、はじめのことばとさせていただきます。

金沢大学長 和田 隆志

プロジェクト（授業）概要

○目的

令和4年度から和田学長のもと実施開始するプロジェクト（授業）です。学生は3つの地域、五箇山・珠洲・小木のうち1つに赴いて”Practice”（練習・実践）として、金沢大学の学生が参加できるプロジェクトやイベントを企画し提案することを主題とした授業に参加します。各Practiceで選出された2グループ、合計6グループが白山での最終成果報告会”Final”に参加します。こうした各グループでのプラクティスに若手担当職員も事前講義から参画してアイデアを出し合うというプロジェクトです。

令和4年度共通教育授業科目「未来デザインプラクティス」（授業担当教員 国際機構 佐藤 智哉准教授）

授業の主題

「自分と未来は変えられる！」

将来、皆さんは、地球温暖化などの全世界的な課題を解決するためのプロジェクトや、あるいは、地域をより良くするための様々な取り組みに参加することになります。自ら自分たちの”未来をデザイン”し、効果的なプロジェクトを企画し、チームのリーダーやメンバーに提案（プレゼン）し、様々な背景を持つ仲間とコミュニケーションを取りながら、その実現に向けて進んでいくというわけですね。

授業の目標

この授業は、その”プラクティス”（練習・実践）として、金沢大学の学生が参加できるプロジェクトやイベントを企画し提案することを主題とします。具体的には、1チーム5～6人の構成で1つの企画をまとめ上げ、その成果を学長が参加する報告会で発表することが主課題となります。

この授業では主に、以下の5つの能力を磨くことを目標とします。

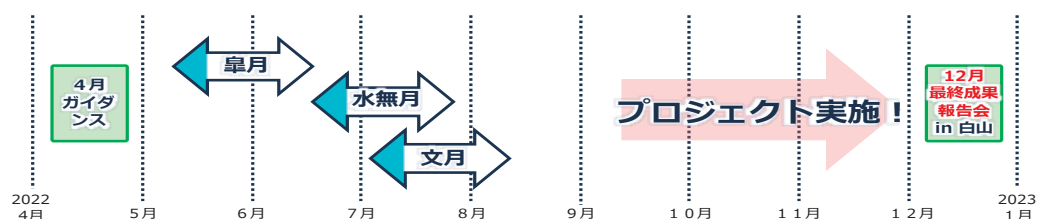
- （1）独創的なアイデアを用いながらも、実行可能なプロジェクトを企画する能力
- （2）チームのメンバーと目的やアイデア共有しながらプロジェクトを推進するためのコミュニケーション能力
- （3）プロジェクトを魅力あるものとして提示するプレゼンテーション能力
- （4）チームにおける自身の役割を認識しながら、主体的にプロジェクトに関わっていく能力
- （5）プロジェクトの当事者でありながらも、その意義や重要性を第三者視点から俯瞰的に捉えることができる能力

授業の概要

この授業は、4回の講義、プロジェクト報告会で構成されます。4回の講義では、プロジェクトの立案のために、グループワークを中心としたアクティビティーを実施します。プロジェクト報告会には参加費（食費等の実費）が必要です。

○各プラクティススケジュール

スケジュール



First	Practice 01 皐月	Practice 02 水無月	Practice 03 文月
ガイダンス	4/25(月)16:45～[A1講義室] or 4/26(火)12:15～[A1講義室] ※どちらかのガイダンスを受講してください。詳細について説明します。		
事前講義① 5限 [B5講義室]	5/ 9(月)	6/20(月)	7/ 6(水)
事前講義② 5限 [B5講義室]	5/16(月)	6/27(月)	7/13(水)
事前講義③ 5限 [B5講義室]	5/23(月)	7/ 4(月)	7/20(水)
事前講義④ 5限 [B5講義室]	6/13(月)	7/11(月)	7/27(水)
地域での学び(日帰り)	〔兼山・五箇山〕 6/18(土)	〔兼登・珠洲〕 7/23(土)	〔佐登・小木〕 8/ 6(土)

未来デザインプラクティス

○各プラクティス参加状況

区分	実施日	実施場所	学生人数	教職員人数	合計
皐月	6月18日(土)	五箇山	18	13	31
水無月	7月23日(土)	珠洲	21	12	33
文月	8月6日(土)	小木	7	16	23
Final	12月10日(土)	白山	12	17	29

○各プラクティス企画一覧

区分	企画	賞
皐月・五箇山A	「ミッション×バトル」	
皐月・五箇山B	フラワーアート	優秀賞
皐月・五箇山C	「Food Day Project」	
皐月・五箇山D	「留学生と料理を作ろう」	
皐月・五箇山E	「International Sweets Week」	
皐月・五箇山F	「金大により多くの留学生を」	優秀賞
水無月・珠洲A	「朝活 WEEK」	優秀賞
水無月・珠洲B	「ふれあい広場 in 宝町」	
水無月・珠洲C	「アンブレラスカイ」	
水無月・珠洲D	「Napping Project at 金沢大学」	
水無月・珠洲E	「知識の融合を金大に」	優秀賞
水無月・珠洲F	「マッチングサービス」	
文月・小木A	「学域横断型 クリエイティブ・ワークショップ」	
文月・小木B	「ザツダンの場をつくる」	優秀賞
文月・小木C	「金沢大学のバリアフリー促進」	優秀賞

Community learning "Future Design" Program

未来デザインプラクティス

～自分と未来は変えられる!～

第1回

1

“未来”を“デザイン”する“プラクティス（練習）”

自分の未来

地域の未来
日本の未来
世界の未来



要するに

授業を通して
金沢大学に関係する
プロジェクトを考える

アウトカム

- 未来を変えようという意欲
- 未来を変えられるという自信
- 未来を変えたという経験

これを実行しても
いいですよ



講義 1

未来デザインプラクティス

3

授業スケジュール（事前講義 x 4回 ⇒ 発表会）

4回の事前講義にて

- 課題やポイントの認識
- アイデア出し
- チーム作り
- プロジェクトの立案
- 発表の準備 など

【講義3】

創る

- “商品（アイデア）”をどのように売り込むか
- 商品のターゲット・特徴・ポテンシャル
- プレゼン資料の構成（効果的な発表とは）

【講義1】

気づく

- “未来”から“今”を見る
- 「金沢大学はどんな大学？」
- プロジェクトの種はすでにキャンパスにある！

【講義4】

磨く

- “既製品”を疑う
- 取捨選択 ⇒ 何を見せて、何を見せないか
- The ^{last} step is the hardest

【講義2】

練る

- プロジェクトのアイデアを出し合う
- それぞれのアイデアを検討・吟味する
- 1つに絞る

角間以外で実施！

成果発表会

講義 1

未来デザインプラクティス

4

やっかいなこと

“何でもいい”は、一番困る！
ですよね？



「今週末、
どこ行こうか？」



「今日の夜ご飯
何食べたい？」

「どこでもいいよ」



「何でもいいよ」



ポジティブな意味で

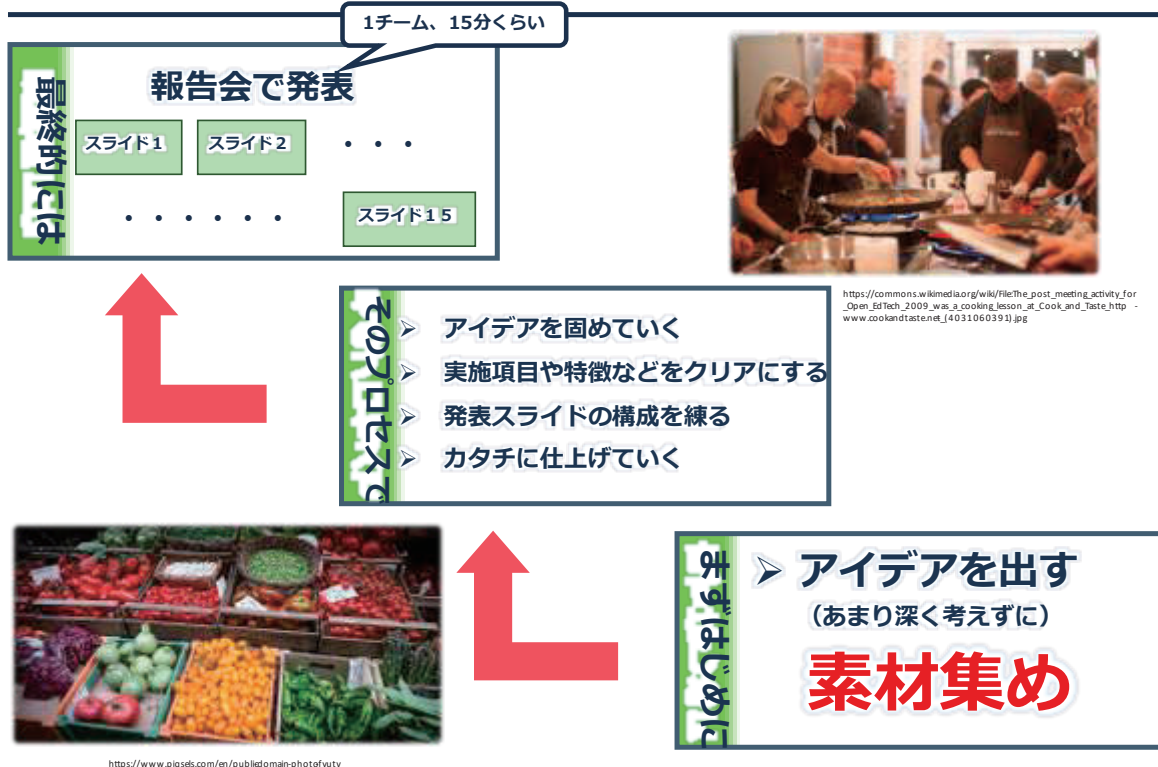


➤ 「金沢大学って、こういう大学だね」
➤ 「金沢大学を、もっとこうしていきたいよね」
という、思い・気持ち・考えが、背景にあるような
プロジェクトやイベント



自分たちの大学は
自分たちでつくる

プロジェクトの構築工程

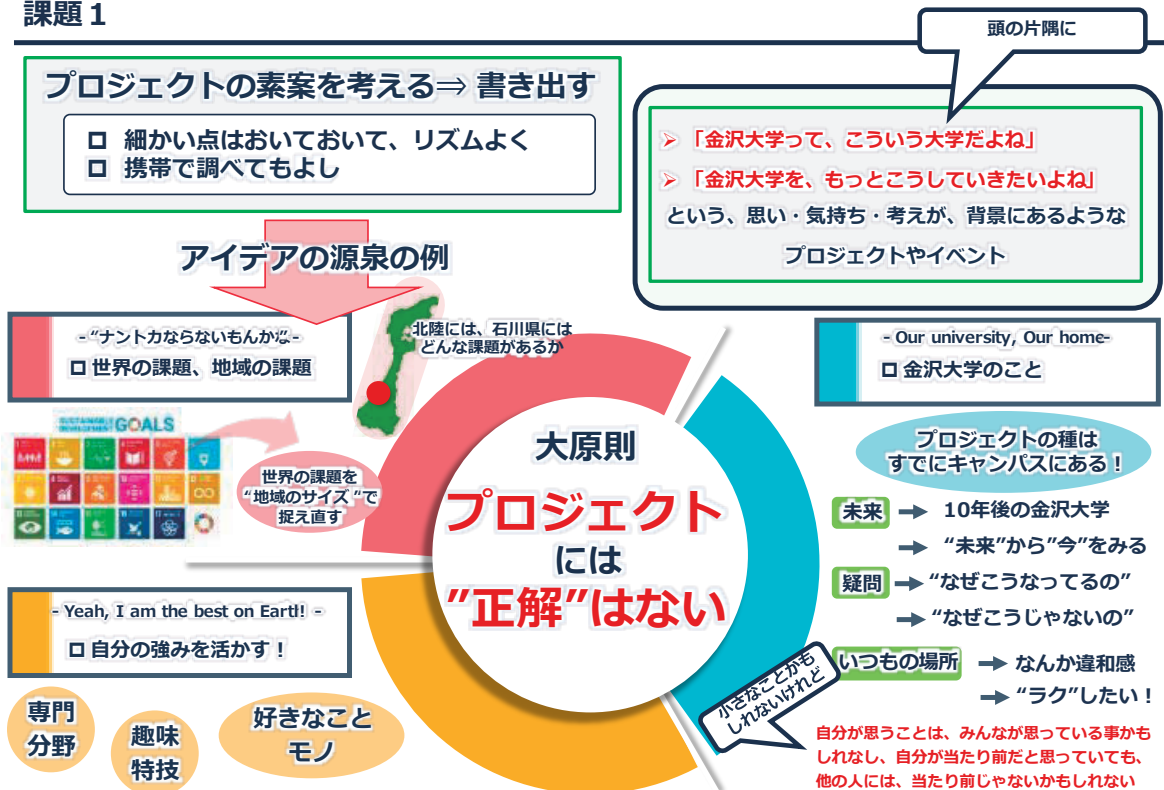


講義 1

未来デザインプラクティス

7

課題 1



講義 1

未来デザインプラクティス

8

アイデアシート
(1アイデアにつき1枚)

氏名 石川 太郎

例

1. 課題解決型
2. 金沢大学関連型
3. 自分の強み活用型
4. その他 ()

ざっくりいうと

ベジタリアンフードday

学食で、ミートフリーのメニューを手頃な値段で提供する日

金沢大学は

金沢大学は国際性あふれる大学
多様性があふれる大学
いろんな考え方が尊重される大学

大豆ミートってうまいのか？
でも、結構高い ← モスだと220円

学生は、食べる機会がない

金沢大学にはベジタリアンっているんだろうか

“ダイエットに最適”

“健康に最適”

ミートフリーに関するイベントも
いっしょにやる

誰呼ぶの？

何人くらい来るか？

私の経験から

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

アイデア

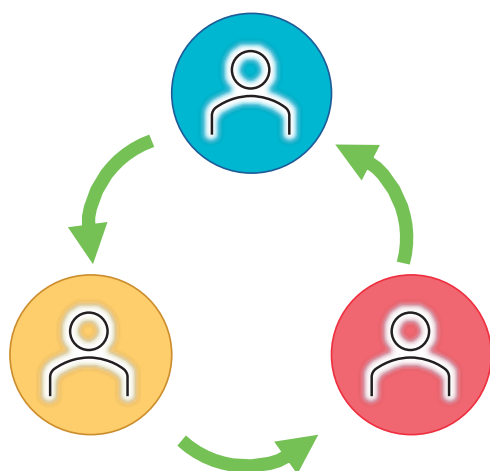
アイデア

アイデア

アイデア

“モノ”になるのは少数

カタチもどんどん変化する



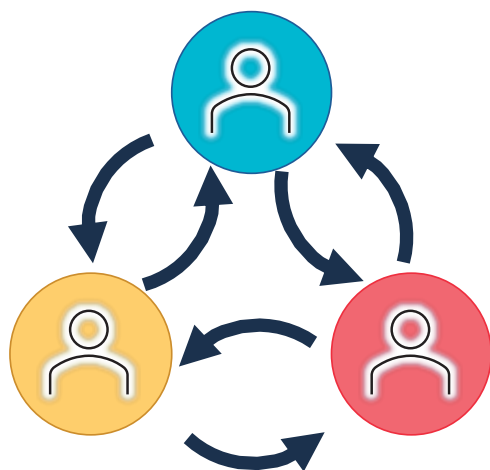
1. 他の学生 1 のアイデアを見せてもらう
2. 回す
3. 他の学生 2 のアイデアを見せてもらう
4. 自分のものが返ってくる

プロジェクトの素案に関する

雑談

???

雑談は簡単ではないですよ（思っているよりも）



プリンストン高等研究所

- 雑談は“チームワーク”
（うまくいかないと、単調な小学生の夏休みの日記のようになる）
- チームでプロジェクトを推進していくときには“雑談”も非常に効果的
（すごい人は“雑談力”も“すごい”！）

- 他の学生の考えを汲み取る力
- 他の学生の考えを聞き出す力
- ひとくくりに言えば
⇒ コミュニケーション力
⇒ 話をふくらませる力
- 自分のアイデア話すことで自分が気づかなかったポイントもクリアに

- あくまでも素材なのでなるべく“好意的に”
- 最終的にこのグループになるというわけではありません

ゴール

- プロジェクトやイベントのアイデアを2～3つ考案する
- メールで提出する
: 指定された期日までに
- satotomoya@staff.kanazawa-u.ac.jp

メールの
タイトル

例えば、こんな感じ

(課題提出) 『未来デザインプラクティス/〇月』

佐藤先生

理工学域数物科学類2年の石川太郎です。

私のプロジェクトのアイデアは以下のとおりです。

【アイデア1】"フリーコーヒーサーバー"。

学生証を見せると、コーヒー1杯が無料になるイベントです。イベントには留学経験のある方々に、自身の留学経験を紹介してもらおうということも考えています。

【アイデア2】ホニャララホニャララ

ざっくり、
どのような感じが
わかれば十分です

オフィスアワーを活用してください

オフィスアワーとは？

- 学生のみなさんが"アポイントメント無し"で
教員に会う・相談する・議論することができる時間

毎週金曜日 15:00-17:00
総合教育1号館 311号室

- 授業の用に関する質問・相談
- 留学に関する相談・おしゃべり
- コーヒーも
用意しています



地域での学び

詳細スケジュール

○五箇山 6月18日（土）

8:20	参加者集合（金沢大学事務局前玄関・若松・旭町）
8:30～ （学生迎え）	8:30 事務局前出発（大学大型バス） →8:33 若松乗車 （酒のやまや側のバス停辺り：V ドラックもりの里店向かい） →8:40 旭町乗車 （金沢メモリアルホール側の歩道：北國銀行旭町支店向かい）
10:00	相倉集落着
10:00～10:10	集合写真撮影
10:10～10:20	移動
10:20～10:50	五箇山の暮らし（民宿勇助）
10:50～11:10	民宿勇助見学・合掌造り見学ツアー準備
11:10～11:40	合掌造り見学ツアー（2班に分かれる）
11:50	相倉集落発
12:20	ふれあいハウス着（タカンボースキー場）
12:30～	昼食（若手職員によるランチオンセミナー）
13:30～14:00	田中幹夫南砺市長による講義
14:00～14:30	ロバートジェンキンス准教授（理工研究域地球社会基盤学系）による講義
14:30～15:00	和田隆志学長による講義
15:00～18:00	発表・審査・講評
18:00～ （学生送り）	ふれあいハウス（タカンボースキー場）出発（大学大型バス） →若松降車 （酒のやまや側のバス停辺り：V ドラックもりの里店向かい） →旭町降車 （金沢メモリアルホール側の歩道：北國銀行旭町支店向かい）

「未来デザインプラクティス『皐月（五箇山）』」の成果報告会を開催

6月18日（土）、共通教育科目「未来デザインプラクティス『皐月（五箇山）』」が富山県南砺市・五箇山で行われ、学生18名、教職員13名が参加しました。この科目は、「自分と未来は変えられる！」をテーマにして、今年度から新しくスタートしたものです。

自ら自分たちの“未来をデザイン”し、様々な背景・専門性を持つ仲間とコミュニケーションを取りながら、その実現に向けて進んでいく、その“プラクティス（練習・実践）”として、金沢大学の学生が参加できるプロジェクトやイベントを企画し提案することを主題としています。

成果報告会の当日は、まず相倉集落を見学し、民宿勇助にて五箇山の暮らしについて学びました。

午後からは、タカンボースキー場のふれあいハウスへと移動し、初めに若手事務職員によるランチョンセミナーが行われ、続いて南砺市の田中幹夫市長から『世界に誇れる「一流の田舎」を目指す』と題した講演、本学理工研究域地球社会基盤学系ジェンキンス・ロバート准教授から「私の過去、現在、そして未来—ユニークであれ！声を上げる！手を挙げる！人のために」と題した講義がありました。

最後に和田隆志学長から、「偶然の出会いが、将来振り返ってみたときに必然の出会いだったと思えるように、友人や先生、地域社会の人々との出会い・交流を大切にしながら、様々なことにチャレンジして学生生活を送ってほしい」というメッセージのこもった講義がありました。

講義の後は、6つの学生グループから「金沢大学の未来を自分たちでデザインしていこう」というテーマに沿って、これまで構想してきた企画の発表があり、2つのチームのプロジェクトに対して優秀賞が贈られました。この2チームは、今後、企画したプロジェクトをさらにブラッシュアップしながら、その実現に向けて活動を続けていきます。



五箇山相倉集落 集合写真



五箇山特有の相倉集落を見学する参加者ら



南砺市の田中市長による講義



参加者らにメッセージを伝える和田学長

未来デザインプラクティス／皐月 6グループの企画

グループA



- 地域の方々や近隣の小学校の生徒などに大学を開放し、様々な活動を通して交流をはかる

グループB

優秀賞！

フラワーアート



- 金沢大学の広大な敷地を活用してフラワーアートを作成し、人々の交流を促進し大学を活気づける

グループC



- 移動販売形式で様々な飲食店を誘致し、学生の食生活の充実やキャンパスの活性化につなげる

未来デザインプラクティス

12

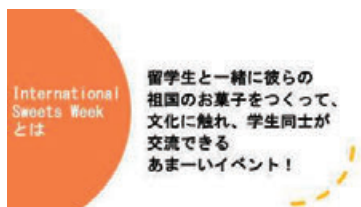
未来デザインプラクティス／皐月 6グループの企画

グループD



- 海外に対する関心や友達作りを目的として、留学生と世界各国の料理を作る異文化交流会を開催する

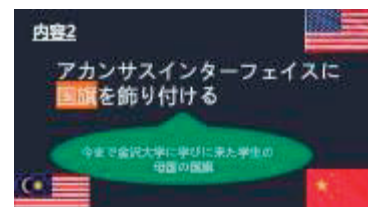
グループE



- 留学生と一緒にお菓子を作るイベントを開催し、多様な背景を持つ生徒同士の交流機会を増やす

グループF

優秀賞！



- 国際性が視覚的にもわかるように国旗を飾り付け、留学生が穏やかな気持ちで過ごせる環境を作る

未来デザインプラクティス

13

○能登・珠洲（角間で実施） 7月23日（土）

8:25	参加者集合（角間ゲストハウス ELP センター）
8:35～9:10	学生の自己紹介
9:10	角間ゲストハウス ELP センター 発
9:20～10:10	中央図書館・資料館 着 →松永篤知特任助教による説明 和田隆志学長による北辰の説明 ※トイレ休憩有
10:10	中央図書館・資料館 発
10:15	集合写真撮影
10:20	角間ゲストハウス ELP センター 着
10:30～11:00	金沢大学ボランティアさぽーとステーション※による講義 ※金大生による被災地等へのボランティア活動を行う団体
11:00～11:10	休憩
11:10～12:10	<u>ゲンダイシュウラク</u> 代表取締役 林 俊伍さんによる講義 ※真浦町をフィールドに限界集落を現代集落に変えるプロジェクト
12:10～13:05	昼食（若手職員によるワールドカフェ風ランチョンセミナー）
13:15～14:00	泉谷満寿裕珠洲市長による講義
14:00～14:30	松本翼准教授（ナノマテリアル研究所）による講義
14:30～15:00	和田隆志学長による講義
15:00～15:10	休憩
15:10～18:10	発表・審査・講評 ※途中休憩有
18:20	解散、片付け

「未来デザインプラクティス『水無月（珠洲）』」の成果報告会を開催

7月23日、共通教育科目「未来デザインプラクティス『水無月（珠洲）』」の成果報告会が角間キャンパスで行われ、学生21名、学長・教職員12名が参加しました。

当日は、会場の本学スーパーグローバルELPセンターに集合し、はじめに学生から和田学長への自己紹介および質問を行いました。

その後、中央図書館・資料館を見学しました。見学後は、金沢大学ボランティアさぽーとステーションから「家でできる防災やボランティアの難しさ」について、続いてゲンダイシュウラク代表取締役の林俊伍氏から「珠洲市真浦町での取り組み」について講義が行われました。

午後からは、珠洲市の泉谷満寿裕市長から「さいはての地域経営」と題した講演がありました。その後、ナノマテリアル研究所の松本翼准教授から「自分と未来を変えるためには」と題した講義を行いました。

最後に和田学長から講義があり、「友人や先生、地域社会の人々との偶然の出会い・交流を大切にしながら、様々なことにチャレンジし、未来の教科書や社会を書き換えてほしい」というメッセージを伝えました。

講義の後には、6つの学生グループから「金沢大学の未来を自分たちでデザインしていこう」というテーマに沿って、プロジェクトの発表があり、2つのチームのプロジェクトに対して、優秀賞が贈られました。この2チームは、今後、企画したプロジェクトをブラッシュアップしながら、その実現に向けて活動を続けていきます。



中央図書館 集合写真



中央図書館で北辰の説明をする和田学長



珠洲市の泉谷市長による講義



プロジェクトを発表する学生

未来デザインプラクティス／水無月 6グループの企画

グループA

優秀賞！



- 朝の活動を習慣化するためのきっかけとして、珈琲などを無料で提供するイベントを開催する

グループB



- 宝町付近の小学生や留学生などとの交流イベントを開催し、地域の人々との交流をはかる

グループC



- 雨が多い金沢において、忘れ物の傘をアート作品として飾り付けることでキャンパスを活気づける

未来デザインプラクティス

14

未来デザインプラクティス／水無月 6グループの企画

グループD



- 仮眠スペースを設置し、空きコマなどで活用してもらい、学生がより授業に集中できる環境を作る

グループE

優秀賞！



- 学生が自身の専門分野を教えるイベントを開催し、学生同士の知識の融合を促進する

グループF



- アプリを使ったマッチングサービスを開発し、学類間や異文化間の学生交流機会を増やす

未来デザインプラクティス

15

○能登・小木 8月6日(土)

7:45	参加者集合(金沢大学事務局前玄関・若松・旭町)
7:55～ (学生迎え)	7:55 事務局前出発(大学大型バス) →7:58 若松乗車 (酒のやまや側のバス停付近:Vドラックもりの里店向かい) →8:05 旭町乗車 (金沢メモリアルホール側の歩道:北國銀行旭町支店向かい) ※途中、高松SA、別所岳SAでトイレ休憩をとります。
10:15	臨海実験施設 着
10:15	集合写真撮影
10:25～11:05	鈴木信雄教授(環日本海域環境研究センター)による「クルマエビのひみつ」講義(解剖実験) @臨海実験施設講義室
11:05～11:15	船で九十九湾を10分程度回遊 ※能登海洋水産センターに着岸
11:20～11:50	能登海洋水産センター内を見学(30分程度)
11:50	移動(バス)
12:00～13:00	昼食(若手職員によるランチョンセミナー)@のときんぷら
13:00～14:00	自治体講義@のときんぷら研修室 能登町副町長講義「能登町の取組みと金沢大学との関わり」
14:00～14:30	和田隆志学長による講義
14:30	移動(バス)
15:00～16:00	プラネタリウム鑑賞 @満天星(40分程度)
16:00	移動(バス)
16:20～16:50	松田真希子教授(融合研究域融合科学系)による講義 @のときんぷら研修室
16:50～17:10	休憩(20分間)
17:10～18:30	学生成果発表・審査・講評
18:30	のときんぷら発
21:00 (学生送り)	※途中、西山PAでトイレ休憩をとります。 →旭町降車 →若松降車 →金沢大学事務局前玄関降車

「未来デザインプラクティス『文月（小木）』」の成果報告会を開催

8月6日、共通教育科目「未来デザインプラクティス『文月（小木）』」の成果報告会が能登町・小木で行われ、学生7名、学長・理事を含めた教職員16名が参加しました。

当日は、まず本学の臨海実験施設にて環日本海域環境研究センターの鈴木信雄教授より「クルマエビのひみつ」と題した講義があり、実際に解剖をしながらクルマエビの生態について学んだあと、能登海洋水産センターへ船で移動し、施設内を見学しました。

午後からは、能登町の田代信夫副町長から能登町の取り組みについての講演、融合研究域融合科学系の松田真希子教授から「ことばの研究で日本と世界を耕す」と題した講義がありました。また、講義の合間には星の観察館「満天星」にてプラネタリウムの鑑賞を楽しみました。

さらに、和田学長の講義では、自身の経験と重ねながら、「人々との偶然の出会いや交流が未来の自分や社会を変えることにつながる」というメッセージが伝えられ、今後のキャリア形成について考える機会となりました。

その後の成果報告会では、3つの学生チームが「金沢大学の未来を自分たちでデザインしていこう」というテーマに沿ってプロジェクトの発表を行い、2つのチームに優秀賞が贈られました。

今回の『文月（小木）』に加え、先立って実施された『皐月（五箇山）』、『水無月（珠洲）』の各プラクティスから選出された計6チームは今後、企画したプロジェクトを実行に移し、12月に白山で行われる最終成果報告会で発表します。



集合写真 小木（臨海実験施設前）



能登海洋水産センターへ向けて船で移動



能登町の田代副町長による講義



プロジェクトを発表する学生

グループA



多様な価値観を持つ学生が集まり
共同で作品を作るワークショップ
形式のイベントを開催する

グループB



若手職員の方や学長とのザツダン
イベントを開催し、学域や教職員
の枠を超えたつながりを創出する

グループC



心と身体のリニアフリーの理解を
深めることを目的としたワーク
ショップイベントを開催する

学長講義資料より抜粋

偶然の出会いを必然に！

- 友人・先生・色々な人との偶然の出会いを大切に!
模範解答・正解のない世界へようこそ
思いがけない接点と発展があります
- 留学のススメ
様々な可能性を秘めた他流試合に臨もう
- 未来の教科書や社会を書き換えていくのは皆さんです
答えを教えてもらえる高校時代までと異なります
自分の頭で考えてみませんか
期待しています！

○白山 12月10日（土）

8:20	参加者集合（金沢大学事務局前玄関・若松・旭町）
8:30～ （学生迎え）	8：30 事務局前 出発（大学大型バス） →8：33 若松乗車 （酒のやまや側のバス停付近：Vドラックもりの里店向かい） →8：35 旭町乗車 （金沢メモリアルホール側の歩道：北國銀行旭町支店向かい）
9:30～11:40	白山市役所職員によるツアー 白山手取川ジオパークの解説及び見学
12:00～13:00	昼食 民宿旅館「かのや」 着
13:00	民宿旅館「かのや」 発
13:15	白山市鶴来総合文化会館クレイン 着
13:30～14:00	MAMADOVA AIDA 准教授（国際機構）による講義（質疑応答含む）
14:00～14:10	休憩（10 分間）
14:10～15:30	学生成果発表・質疑応答（20 分/チーム）※途中休憩有
15:30～16:00	審査会（別室移動、審査時間 30 分）
16:00～17:00	学長・各理事による講評会・表彰式
17:00	白山市鶴来総合文化会館クレイン 発
17:50 （学生送り）	→旭町降車 →若松降車 →金沢大学事務局前玄関 降車
18:00	解散、片付け

「未来デザインプラクティス『白山』」の最終成果報告会を実施

12月10日、共通教育科目「未来デザインプラクティス『白山』」の最終成果報告会が白山市で行われ、学生12名、学長・理事・教職員17名が参加しました。

当日は、まず白山市ジオパーク・エコパーク推進課の日比野氏の案内により、白山手取川ジオパーク現地見学を実施しました。白山手取川ジオパークの解説や手取峡谷や綿ヶ滝、弘法池を見学し、学生から「雄大な自然の中で人が暮らしており、自然と人の共存を感じることができた」といった感想があり、大地の物語と人の暮らしの関係について理解を深めました。

午後からは、国際機構のママードウアアイダ准教授から「禅 SDGs」と題した講義があり、これまでの生い立ちや禅との出会い、現在の研究内容である SDGs の活動について紹介しました。学生たちは SDGs を通じた世界と自治体のつながりや活動を知るとともに、身近にできる取り組みについて考える良い機会となりました。

講義の後は、各プラクティス（五箇山、珠洲、小木、下記 URL 参照）から選ばれた4つの学生グループのプロジェクト「金大により多くの留学生を」「朝活 WEEK」「ザツダンの場を作る」「金沢大学のバリアフリー促進」について、実施成果を学長・理事の前で報告しました。報告後、全てのグループに優秀賞が贈られ、各プロジェクトについて学長・理事から講評がありました。

今年度より新しく開講された「未来デザインプラクティス」は、全学の様々な部署から推薦された若手職員もプロジェクトチーム員として参加しました。組織横断的にチームを組み、プログラムの企画や運営を行うとともに、学生のファシリテーターとして、ディスカッションへの参加や、プロジェクトへのアドバイスを行うなど、学生と一緒に未来デザインに取り組みました。



白山 集合写真



弘法池の解説をする白山市役所職員



アイダ准教授による講義



実施成果を発表する学生

学生レポート

プログラムに参加した学生の素晴らしいレポートを紙面の都合上 3 人分をここに紹介いたします。(原文のまま掲載)

皐月(五箇山)

未来デザインプラクティスを受講して
「金大により多くの留学生を」

総合教育部文系 1 年 佐々木菜摘 佐藤珠梨 宮田京佳

(1) 企画したプロジェクトの内容

私たちは、総合教育部文系の 3 人で構成されたグループです。私たちは金沢大学の国際化をより促進させるために、改善が必要だと考えた点に焦点を当てたプロジェクトを実施しました。まず、留学生の方々に金大に求めていることや、金大に通って感じることにについてインタビューを行いました。そこでみなさんがおっしゃっていたのは「日本人学生と留学生の間に壁がある」「どこか孤独感を感じる」ということです。そこで私たちは、これらの問題を解決するために①日本語を主に使う交流会、②留学生の母国の国旗をアカンサスインターフェイスに飾る という 2 つのプロジェクトを実施しました。①交流会は、日本人学生と留学生の間に壁がある理由は、英語に自信の無い日本人学生が交流に積極的になれないという「言語の問題」があると考えたところからアイデアを得たものです。また②国旗を飾ることは、他国に行った際、母国の国旗や食べ物を見た時に「どこかほっとする」「安心する」ことができるというところからアイデアを得たものです。

(2) プロジェクトを準備・実施する過程で学んだこと・気づいたこと

このプロジェクトを進めるなかで、私たちが学んだことは自分たちで考えたアイデアで実際に留学生の人に喜んでももらえるとは限らないということです。自分たちのアイデアが本当に留学生のためになるのかと一度疑いをもち、本当に良いプロジェクトを作るためにたくさん試行錯誤しました。そのために、先生にお願いして実際に留学生の人にインタビューを行ったり、出てきたアイデアをいろんな角度から考えました。何度もアイデアを練り直したり、自分たちの時間を割いてミーティングを行うのは大変ではありましたが、先生たちに助けてもらったこともあり、プロジェクトは留学生のみなさんにも喜んでもらえるようなものを作ることができました。

(3) 本講義を通して感じたこと・成長したと思えること

「未来デザインプラクティス」を履修して、プロジェクトの立案から計画、実行までの流れを本格的に行いました。もちろん理想をカタチにしていくことは簡単なことではありませんでした。たくさん難しい壁にぶつかり、そのたびに試行錯誤を繰り返しました。しかし、プロジェクトを実行し終わったあかつきに私たちが手に入れたものが、単なる「結果」だけではなく目には見えない「感動」や「成長」であふれていると気づいたとき、この講義を履修することの価値をずっしりと感じました。私たちは「金沢大学を変える」過程で、自分自身の未来も変えていたのです。例えば、留学生との日本語オンリーの交流会を立案、実行する流れで、時に英語を織り交ぜながら日本語でも楽しく会話することができました。そこで、コミュニケーションには完璧な言語力よりも「話

したい」という気持ちのほうが重要だと気づき、以前までの、留学生に話しかける抵抗感といったものが少なくなったように感じます。このような経験は私たちの人生にとってかけがえのない宝物になります。そしてこの世の中では、時に自分自身が経験することでしか得られないものがあります。少しでも自分を変えたい、金沢大学の未来を変えたい、と思っているなら「未来デザインプラクティス」という授業を受講してみてください。理想を現実に変えるサポートをしてくれるでしょう。

プロジェクトの背景

1. 国際色豊かな大学にしたい！

留学生数を増やす

国際交流を盛んにする



金大生の視野を広げる + アイデアの種を増やす

2. 金大生のポテンシャルを生かしたい

GS科目などでグローバル 이슈などの知識がある



グローバルに活躍する人材の養成

積極的になれない障壁を減らしたい！



国旗プロジェクト

現在金沢大学に在籍する留学生の母国の国旗を
アカンサスインターフェイスに飾り付ける！

【良かった点】

- ・スムーズに進行することができた
- ・留学生が楽しそうだった
- ・視覚で母国を感じられる→安心感を感じられる
- ・国旗の質が良かった
→保存しやすい、何度も使用することができる

【改善点】

- ・端の国旗がバスから見えにくい
→見える位置に変更する
- ・設置時に手が汚くなった
→軍手等を使用する



未来デザインプラクティスに参加して学んだこと
「朝活 WEEK」

理工学域生命理工学類 1 年 滝本裕輝

(1) 企画したプロジェクトの内容

私たちのグループは、朝早く起きるのが苦手な学生が多いという課題を解決するために、朝の活動を習慣化するきっかけを作ることと、そして朝の金沢大学をもっと盛り上げることを目的として、「朝活 WEEK」というプロジェクトを企画しました。

具体的には、大学生協の方々と協力して、食堂で軽めの朝食を提供したり、コーヒーの無料セルフサービスを設けたりすることで、学生が朝早く登校して、自身の学修をはじめることができればと考えました。

プロジェクトを実施した期間は一週間で、グループメンバーと若手職員のみなさんと、玄関に立ってあいさつ運動をしながらコーヒーや紅茶を配布しました。私達のプロジェクトと並行して、他のグループの「ザツダンの力」プロジェクトも開催され、他の学生にとっても魅力的な企画になったと思います。

(2) プロジェクトを準備・実施する過程で学んだこと・気づいたこと

プロジェクト期間に限れば“飲み物を配る”ということがメインの実施項目でしたが、その計画を完成させるだけでも予想していたよりも手間がかかりました。必要なモノとヒトを用意して段取りを立てるだけでなく、広報・見積りなどももちろん必要であり、そのようなことをすべて含めてイベントを開催するということだと理解できました。プロジェクトをすすめていくにあたって、先生や若手職員の皆さんのサポートは、そのような経験が少ない自分たちにとって、非常に頼りになりました。

プロジェクトを実施してみて気づいたことですが、自分たちの活動は、実施しているときにはあまり認知されていなかったようでした。飲み物を配りながら挨拶をしても、他の学生から挨拶が返ってくるとは限らず、素通りされることもありました。しかし日が経つと良い評判が耳に入ってきて、朝の大学の雰囲気も明るくなったように感じました。このことで、自分たちがやってきたことは少しでも大学に影響を与えられたのだということを実感でき、それなりに大変だった分、無駄ではなかったという手ごたえもありました。

(3) 本講義を通して感じたこと・成長したと思えること

イベントを企画・運営するということは、学生の私たちにとっては間違いなく貴重な経験でしたが、今回のように様々な役割の人たちと連携しながら物事を進めていく場面は、社会で生きていればこれから先も何度もあるだろうと思います。共同作業において、自分の役割、自分には何ができるかを考えながら行動することをこの経験を通して学べてよかったと思います。

この企画を実施して心に残っているのは、朝活 WEEK のことだけではありません。他のグループのアイディアやプレゼンテーションも素晴らしいものが多かったです。この講義に参加した他の学生たちがもつ力や積極性を発掘できたことは、自分が参加してよかったと思う理由であるし、この講義がもつ価値であると思います。

朝活WEEKのきっかけ・目的

背景：朝起きられない学生が多い



朝活を習慣化するきっかけをつくりたい！！

目的：朝活の習慣化⇒よりよい学生生活を！！



実施内容

① 8:00～10:00までコーヒー、紅茶、緑茶などを無料で提供

②あいさつ

③雑談の場との連携

④パンの販売



文月(能登・小木)

未来デザインプラクティスに参加して学んだこと

「金沢大学をバリアフリーに」

人間社会学域地域創造学類 2年 杉本歩

(1) 企画したプロジェクト内容

私たちのグループは、文理様々な学生から構成された3人のメンバーで金沢大学のバリアフリー推進のためのプロジェクトを実施しました。私たちは、当初自分たちから見た現状の金沢大学に足りないものとして、「バリアフリー」「留学生との交流」「文理を超えた交流」をあげ「真の多様性」がもたらされるような企画を考えるということこ

ろから着手しました。中でも、現在取り組みが特に不足しているとする「バリアフリー」について重点的にプロジェクトを考えました。金沢大学では坂や階段といった社会的障壁の多さが見られることから、そこで生活しているとその状況に慣れてしまい障害を他人事として気につけない人が増えるのではないかという懸念をいただきました。そこで、金沢大学の社会的障壁の改善としての身体的バリアフリーと、学生の意識改革として想像力を養い心のバリアフリーを促進できるようなプロジェクトを企画しました。当初の企画では学生が障害を疑似的に体験し、当事者の体験談も交えて個人の関わり方や金沢大学を障害の有無にかかわらず過ごしやすいキャンパスライフを構築にむけてさらなる企画を考え実行するというものでした。しかし、専門家である障害学習支援室の綿引伴子先生と武居渡先生にお話を伺い、国際連合の人権条約の「わたしたちのことを私たち抜きで決めない（Nothing about us without us）」という合言葉に触れまずは交流会という形で当事者と雑談をしながら関わることからバリアフリーをはじめめるのはいかがでしょうかというお話がありました。そこで、障害がありながらも金沢大学で学んでいる村上紗楓さんを紹介していただき、村上さんをゲストスピーカーとしてザツダン形式のイベントと村上さんの普段使っているベッドを使用した移動の体験とその介助を参加者に体験してもらい、村上さんについて知ってもらうイベントを開催しました。プロジェクトの参加者は少人数ではありましたが、雑談という形で話しやすい環境を実現することができました。小規模な交流であり金沢大学全体への変化としてはまだまだ未達成ではありましたが、交流会に参加していただいた学生さんの価値観の幅を広げることができたと考えています。更に多くの学生にこうした場へ参加する機会が設けられ、交流会を機に多くの人に想像力と価値観の幅が広がり、誰もが過ごしやすい金沢大学に変えていくことが期待されます。

（２）プロジェクトを準備・実施する過程で学んだこと・気づいたこと

前述したように私たちのグループは文理入り混じったメンバーで構成されていたので、それぞれの興味関心や学んでいることの違いから多角的な意見を出し合うことができました。大学で授業を履修するときにはやはり、文理で分かれてしまうことも多く一定の特性を持った人との交流に偏ってしまいやすいですが、本プロジェクトでもあったように様々な特性をもつ人が交流することで各人が価値観を広げることにつながると実感しました。また、企画実行までの間にグループメンバーだけでなく専門家の先生や、当事者である村上さんに何度も話し合いの席を設けていただき多くの方に関わっていただきました。机でただ企画を考えるのではなく、実際に様々なところに足を運び人から人へ人脈をつなげていただきながら新たな考えに触れ企画の内容を高めることができました。一方で、私たちのグループはプロジェクトの計画から実行までの間に企画の内容が大幅に変わりました。企画の規模も当初想定していたより小規模のものになるなど想定外のことも多く起こり、当初の掲げた目標には結果としては届いていないように思います。計画が常に変更し、目標通りにいかないという点がプロジェクトでは難しかったです。また、日時や場所決め、様々なところへの許可やアポイントメント取りなどを先生や職員の方に頼り切ってしまい、学生が担わなければならない責任を先生や職員の方任せになってしまっていました。今回のプロジェクトは授業としての位置づけでしたが、本来は更に学生の主体性が求められると考えます。

（３）本講義を通して感じたこと・成長したと考えること。

今回の経験を通じて、私は多くの方と関わったことで自分が成長できたように思います。本講義では、学生同士だけでなく職員・教員・理事の方々と交流し、自分の意見を目上の方々にお話しさせていただくという貴重な機会を設けていただきました。自分の意見は周囲からは当たり前のことだと笑われるようなことだ、それなりに自分の生活しやすい環境に変わっていくのだから自分が行動しなくてもいいじゃないかと思っていました。しかし、自分が1つアイデアをだしたら、周りも意見を出しよい面をさらに伸ばし、改善点を見つけてくれてははじめからは全く想像できないほど壮大なプロジェクトになりました。ありきたりな考えだと思っていることも実は自分の思っ

いた以上に重要なキーワードであり、声に出してみなければそれすら気付くことができなかったのだと思いました。また、ゲストスピーカーでお話ししてくださった村上さんの発表内容にあったように、合理的配慮では過度な負担のかかる特別な配慮ではなく、変更及び調整が必要なのだとありました。大学側から様々な学生のニーズに合わせて大学を大きく作り変えることももちろん大切だと思いますが、大学にいる学生がそれぞれのニーズを集め主体的に行動することで小さなことからでも変えていくことは、その時々々の学生にあった変更と調整を迅速に行いやすく、さらに重要なのだと感じました。大学側が気づいてくれるのを待つのではなく、学生が小さな変化をいくつも作り出すことで、大学は誰もが過ごしやすい環境に常にグレードアップしていくと考えます。来年以降参加される学生さんには、特に何を自分でしたいのかまだ気づけていない方や自分の考えに自信が持てていない人にとってはとても重要な機会になると思います。多様な価値観に触れることで、自分も周りも変えられるようなアイデアが浮かび上がると思います。

目的：バリアフリーな大学に



<https://www.sozailab.jp/sozai/detail/49717/>

障がいがあっても皆と同じように

過ごせる金沢大学に変化

金大生と障がいのある人との交流の場を構築

金沢大学で「障がいと生きる」を考える

身体的バリアフリー × 心のバリアフリー

障害がある学生との「ザッダン」イベント開催

- プロジェクトメンバーとのザッダン形式で障害があるキャンパスライフについて知ってもらうイベントを開催



- イベント終了後にはベットに横たわり教室間を移動する体験とそれを介助する体験を行った。

《気づき》

- 体験会：エレベーター、段差、移動する音が思っていたよりも気になることがわかった
- ベットの体験会にて、周囲の学生も気にしている様子ではあったが声をかける生徒はいなかった
- 体験する生徒からいつもの違いを発見することができたという声が上がった



未来デザインプラクティスアンケート調査

【設問①】 この授業を受けた現時点において、以下の項目について自己評価を行ってください。

事前学習	4 積極的に取り組めた 3 それなりに取り組めた 2 どちらとも言えない 1 深く関われなかった
諸活動	4 積極的に取り組めた 3 それなりに取り組めた 2 どちらとも言えない 1 深く関われなかった
受講生の交流	4 積極的に交流できた 3 それなりに交流できた 2 どちらとも言えない 1 交流できなかった

【設問②】 一番記憶に残っている活動は何ですか？（白山以外）

他グループで一番印象に残っているプロジェクトは何ですか？（白山）

五箇山

1 学長講義 2 自治体講義 3 担当教員講義(改革戦略室) 4 五箇山のくらし 5 合掌造り見学

能登・珠洲 in 角間

1 学長講義 2 自治体講義 3 担当教員講義(改革戦略室) 4 ゲンダイシュウラク職員講義 5 ポラさぽによる講義
6 資料館見学

能登・小木

1 学長講義 2 自治体講義 3 担当教員講義(臨海実験施設) 4 担当教員講義(改革戦略室)
5 能登海洋水産センター見学 6 ブラネタリウム鑑賞 7 九十九湾回遊

白山

1 フラワーアート 2 金大により多くの留学生を 3 朝活 WEEK 4 雑談の場 5 金沢大学のバリアフリー

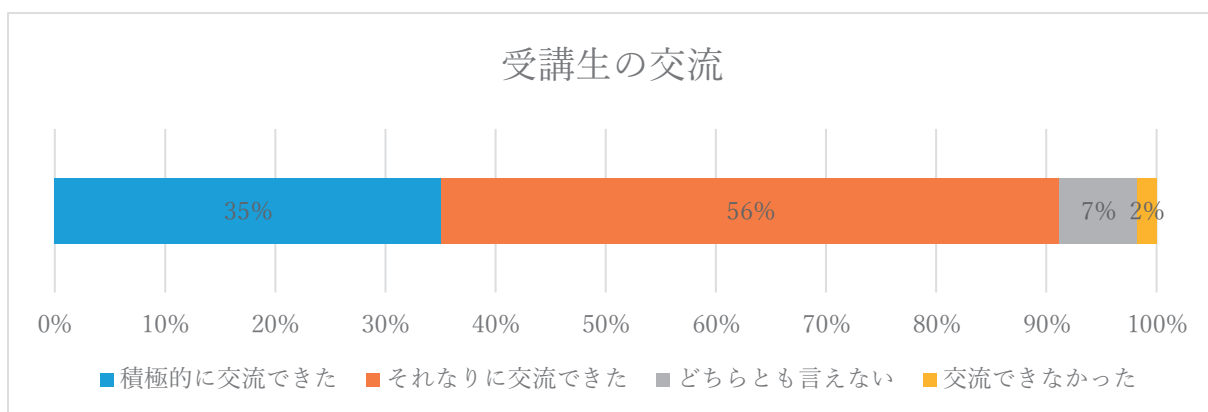
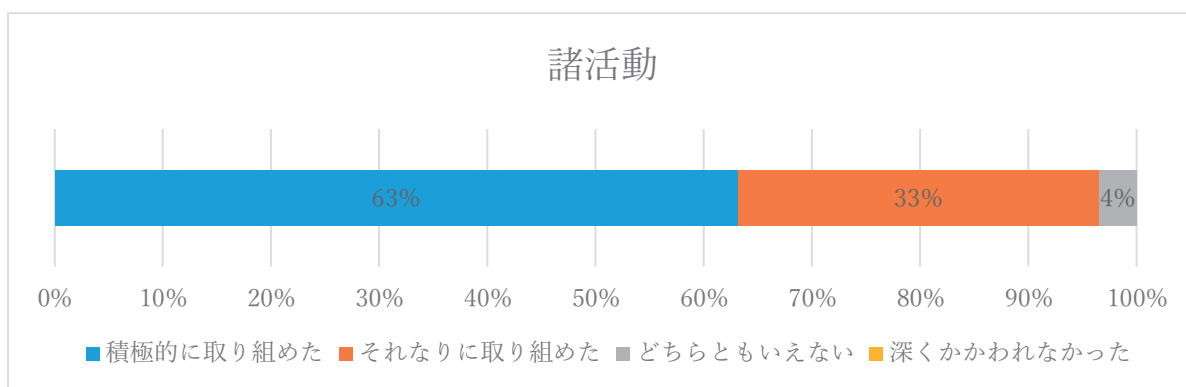
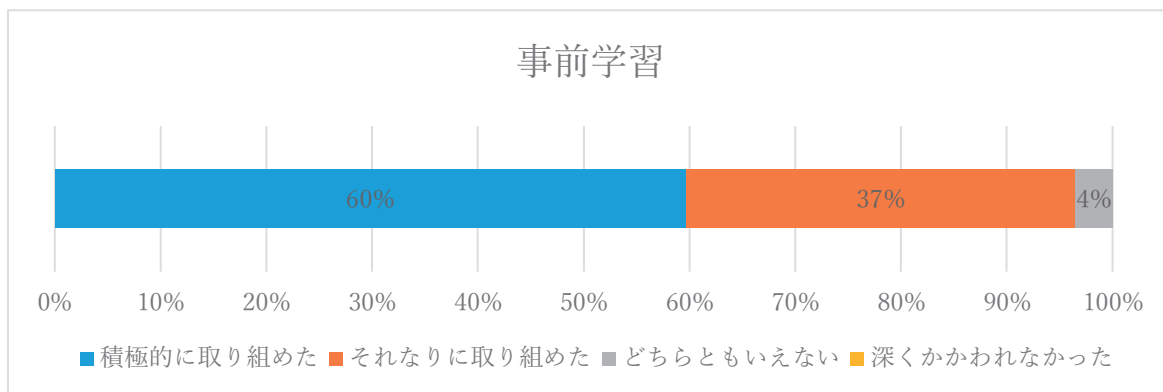
【設問3】 ①～⑤の能力について、受講前を0とした場合の、受講後に感じる各自の成長度を選択してください。

内容		受講前	成長度1	成長度2	成長度3	成長度4	成長度5
①自己認識 発信力	自分が持つ能力や資質を理解し、課題解決に向け、適切に他者への協力を呼びかける力	0	1	2	3	4	5
②協調性 傾聴力	考えや価値観が異なる他者とコミュニケーションし、建設的に自らの思考に採り入れることができる力	0	1	2	3	4	5
③責任感 調整力	克服すべき課題を他者と協調して成し遂げるため、自分の責務と役割を理解できる能力	0	1	2	3	4	5
④規律性 倫理観	規範意識を持ち、計画に沿って、チームの中で適切な行動を取ることができる能力	0	1	2	3	4	5
⑤判断力 課題認識	自らが置かれた社会環境等を理解し、適切な貢献を果たすべく行動できる力	0	1	2	3	4	5

【設問4】 この授業を履修して、最も強く心に感じたことを一言で記述してください。

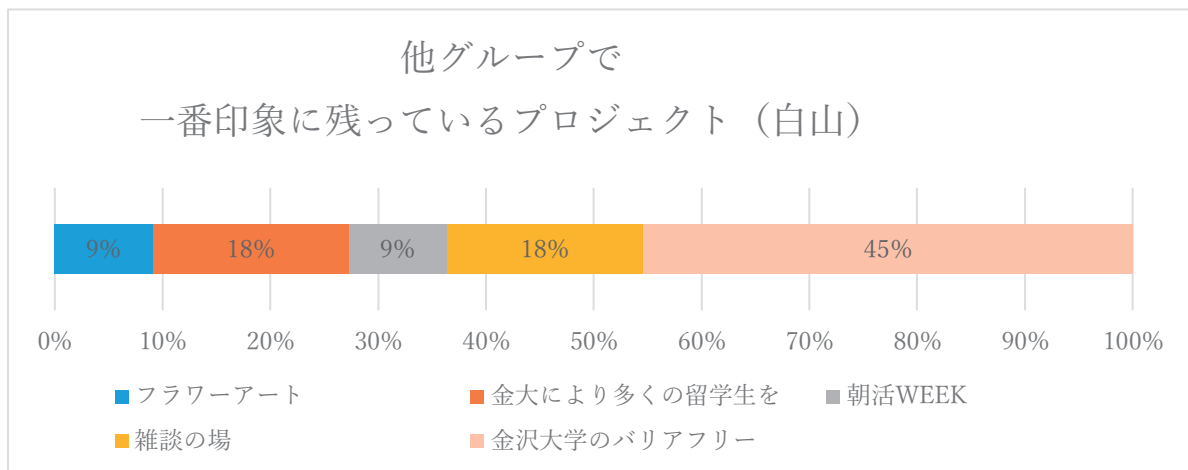
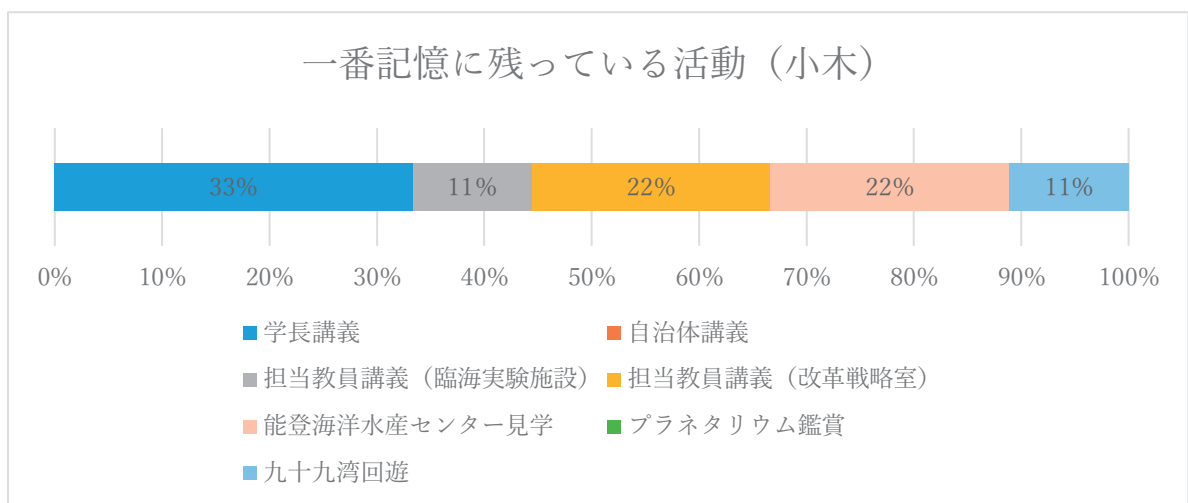
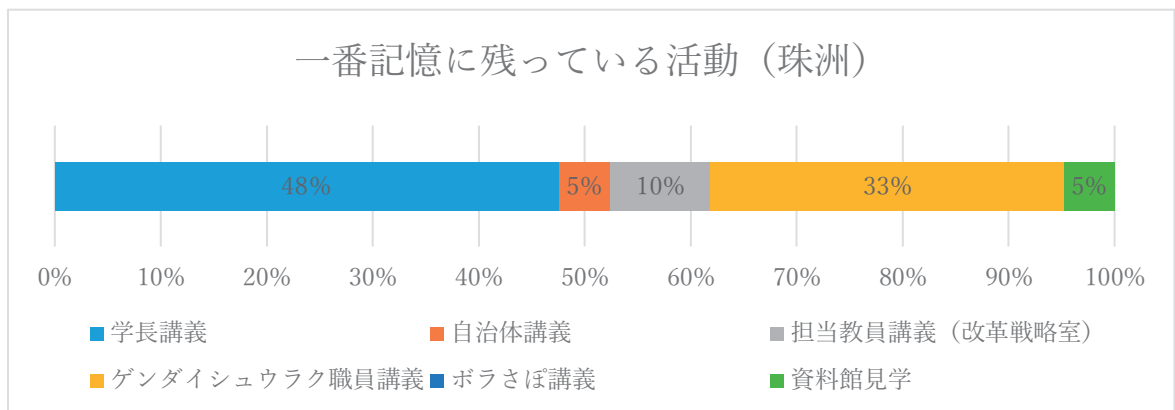
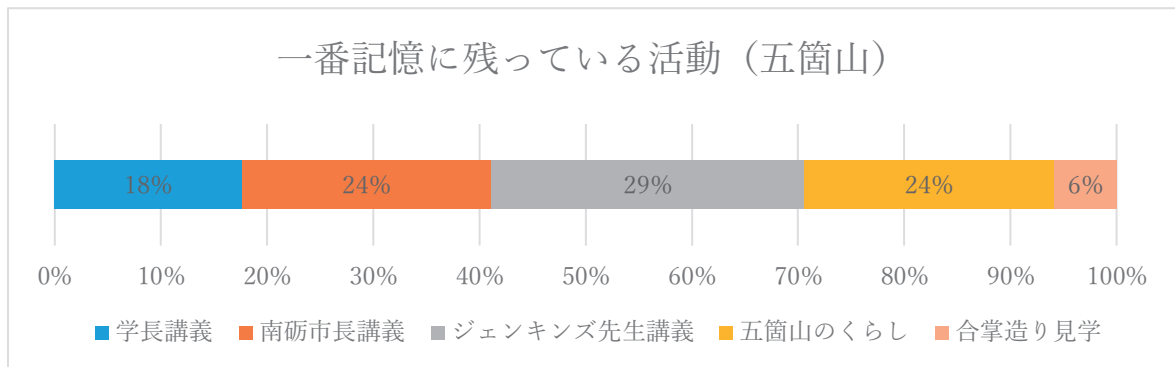
アンケート集計結果

【設問 1】 この授業を受けた現時点において、以下の項目について自己評価を行ってください。

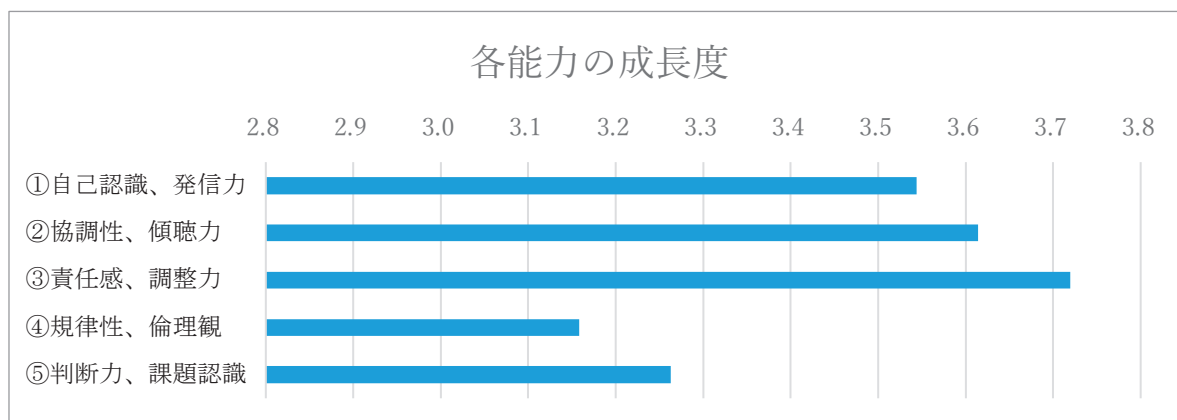


【設問2】一番記憶に残っている活動は何ですか？（白山以外）

他グループで一番印象に残っているプロジェクトは何ですか？（白山）



【設問3】①～⑤の能力について、受講前を0とした場合の、受講後に感じる各自の成長度を
選択してください。



【設問4】この授業を履修して、最も強く心に感じたことを一言で記述してください。

(数例のみ原文のまま記載)

五箇山

- ・挑戦しないで終わることはなくしたいです。
- ・金沢大学について更に知ることができたとともに、自由に企画案を出すことの大切さと楽しさを学べた。
- ・学生のうちに様々な経験を積むことの大切さや、やりたいなと思ったことはすぐに行動に移すことの大切さを学びました。
- ・人のためにやったら自分のためにもなる、やってみて自分の意図にはない成果を得られるなど、多くの学びを得られた。

- ・自分たちでプレゼンする経験を得たが、ジェンキンス先生や市長のプレゼンの巧さ、熱意を改めて感じ、非常に参考になった。
- ・積極的に考える、行動する、話すということが自分の成長につながり、未来を変えていく力になるということが強く心に思いました。
- ・職員や先生のスピーチや話し方などが参考になった。

能登・珠洲

- ・「はい」か「YES」の気持ちで自分から何かやってみること、一歩踏み出すことを心がけることです。
- ・学長が講義の中でおっしゃられていた2つの目を持つ ということは、私に足りないと同時に2つの目を持つことができる社会人になりたい、ということを強く感じました。

- ・今まで全く関わりのなかった人たちと1つのプロジェクトを完成させる難しさを痛感しました。また、昼食時の若手職員のプチプレゼンは今後就職活動を進めていく自分にとってとても興味あるもので、気軽にあったし一番楽しかった。

・この授業を通して、自分たちで課題や大学の今後のビジョンを発見し、それを解決・達成するための方法を考えそれを具体化して発表まで行うという一連の流れを行うことの難しさを実感しました。

能登・小木

・1から課題を設定し、アイデアを生み出すというのがとてもコストを要する作業だと実感した。この経験は今後の学生生活や社会に出た後にも絶対に役立つと思った。友人が「来年あったら履修したい」と言っていたので、ぜひ来年も続けてほしいです。

・与えられたテーマが「金沢大学をよりよくするための提案？」のようにかなり漠然としており、多様な方向性のアイデアが出た中で、どれを取捨選択すればいいのかメンバー内で決定するのに苦労した。

白山

・実現させることは容易でないし、思い描いたものではないことも多々出てくることがあるが、そこであきらめたところで何も変わらないし、「なんとかしてやる」という意志があるだけで、辿り着くゴールは大きく異なるんだということを今回学びました。佐藤先生、内容の濃い授業をありがとうございました。

・継続して努力することが自分自身と未来を変えていくためには重要だということを実感した。

・今までふれてこなかった分野について取り組んだのでプレゼンなどもふくめて自分の成長を感じた。後期は授業としての活動ではなかったのでグループ全員で集まるのがなかなか難しかったのでそこが改善点だと思った。

・久しぶりに本気で何かに取り組んでぶつかって議論し合ってまた仲良くなって語り合える仲間に出会えた。

・この授業を取ったとき「意識高そうで気が引ける」と思っていたが、参加してみたら案外楽しかった。

・短時間でしたが、自分自身頑張れたと思いました。一緒に他学年、他学類の人と、職員の人とプロジェクトを進められて刺激的な期間でした。

・私の学類では、仲間とプロジェクトを企画することはほとんどないので、参加して自分が成長できたと思う。

・3人の先生方からのそれぞれの指摘を受けて、自分とは違う見方や目線の大切さを感じた。また、自分の意見を押し通すことの難しさを感じた。

・やりたいこと、学びたい学問は何だろうと未だに迷走していました。しかし、今回の未来デザインプラクティスを履修し、バリアフリーやマイノリティーに対する支援などについてお話を聞いたり、アイダ先生のお話を聞いたりして、なんとなく自分のやりたいことについて分かってきたような気がします。本当に授業をうけて良かったです。

・今回何度も話に上がっていた「なんとかする」という点。自分がネガティブであせってしまうことが多いが途中で投げだすのではなく最後までやり切ることが大切と思った。また、人財が宝という言葉を強く実感した。

ご協力いただいた皆様

- 各自治体（南砺市、能登町、珠洲市、白山市）の皆様
- 五箇山合掌造り相倉集落の皆様
- タカンボースキー場の皆様
- (株)ゲンダイシュウラクの皆様
- 金沢大学臨海実験施設及び能登海洋水産センター教職員各位
- 金沢大学資料館職員各位
- 金沢大学ボランティアさぽーとステーション（ボランティア団体）各位
- 金沢大学講義担当教員各位

○スタッフ（所属・役職は、令和5年3月時点のものです）

【総責任者・主宰】

和田 隆志 学長

【総括】

塩川 達大	理事（総務・財務・施設担当）／副学長／事務局長
大西 啓介	理事（総務・財務・施設担当）／副学長／事務局長（五箇山のみ） （※令和4年6月末現在）
佐藤 智哉	国際機構 准教授
安田 純子	学務部学生支援課長（調整補助 五箇山・小木担当）
中嶋 敦子	学務部学生支援課副課長（調整補助 珠洲・白山担当）

【五箇山担当】

ジェンキンズ ロバート	理工研究域・地球社会基盤学系 准教授
酒本 千鶴	学務部基幹教育支援課 課長
大島 智葉	総務部人事課人事総務係 一般職員
馬場 仁美	財務部財務企画課企画調整係 一般職員
松井 洸貴	施設部施設管理課電気係 技術職員
寺本 悠輔	学務部学生支援課学生支援係 一般職員
野村 唯奈	国際部留学企画課留学支援係 一般職員
石井 洋志	情報部情報推進課事務情報システム係 主任

【能登・珠洲 in 角間担当】

松本 翼	ナノマテリアル研究所 准教授
上谷 順彦	医薬保健系事務部学生課 課長
細田 真規子	研究・社会共創推進部 産学連携推進課産学官連携・社会実装係 主任
赤城 駿介	研究・社会共創推進部地域共創推進課地域共創係 一般職員
木谷 麻衣子	国際部国際企画課国際総括係 主任
原口 遼	情報部情報サービス課医学図書館係 一般職員
山本 理功	医薬保健系事務部薬学・がん研支援課会計係 一般職員
新井 ゆう	病院部経営管理課会計総務係 一般職員

【能登・小木担当】

鈴木 信雄	環日本海域環境研究センター 教授
松原 創	理工研究域生命理工学系 教授
松田 真希子	融合研究域融合科学系 教授
岩崎 紀美枝	理工系事務部学生課長
坂下 晴香	総務部総務課総務係 一般職員
前田 裕一	財務部財務管理課資金管理運用係 一般職員
鬼島 峻	施設部施設管理課機械係 技術職員
木谷 真理子	融合系事務部総務課会計係 一般職員
竹端 万結	人間社会系事務部学生課教務・学生係 一般職員
岡本 莉奈	理工系事務部総務課人事係 一般職員
中川 葵衣	理工系事務部学生課入試係 一般職員

【白山担当】

大竹 茂樹	理事(総括・大学改革・附属病院担当)／副学長
森本 章治	理事(教育・高大院接続・大学院改革・情報担当)／副学長
中村 慎一	理事(研究・社会共創・大学院支援担当)／副学長
山岸 雅子	理事(企画評価・ダイバーシティ推進・広報戦略担当)／副学長
MAMADOVA AIDA	国際機構 准教授
酒本 喜浩	人間社会系事務部 学生課 課長
坂下 晴香	総務部総務課総務係 一般職員
大島 智葉	総務部人事課人事総務係 一般職員
鬼島 峻	施設部施設管理課機械係 技術職員
赤城 駿介	研究・社会共創推進部 地域共創推進課 地域共創係 一般職員
野村 唯奈	国際部留学企画課留学支援係 一般職員
木谷 真理子	融合系事務部総務課会計係 一般職員
竹端 万結	人間社会系事務部学生課教務・学生係 一般職員
山本 理功	医薬保健系事務部 薬学・がん研支援課 会計係 一般職員

【自動車運転】

金丸 明広	総務部 総務課総務係 (五箇山・小木)
篠田 清	総務部 総務課総務係 (白山)



【問い合わせ】金沢大学学務部学生支援課
〒920-1192 石川県金沢市角間町
h_resilience@adm.kanazawa-u.ac.jp